

科目名	馬学総論Ⅰ
開講期間	4月～8月 毎週月曜日（全15回＋試験）
講義時間	16時30分～18時
履修時間数	22.5時間（1.5時間×15回）
単位数	2
授業形態	講義（対面又はオンライン） オンデマンドによる補講あり
担当教員名	南保 泰雄（帯広畜産大学・教授）, 田上 正明（帯広畜産大学・特任教授）, 旋丸 巴（とち馬文化を支える会・専務理事）他
授業概要	
<p>馬という動物の基本について理解し、その概要を学ぶ。特に生物としての馬について、民俗学、歴史、内外の馬産業、地域の馬産業など人と馬のかかわりを理解するとともに、馬の行動学、飼養栄養学、馬学、獣医学、生産育成との関連を理解することにより、馬に親しみを感じ、馬を総合的に理解する入門としての知識を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 馬の進化および人類の歴史の中で馬の果たした役割 2. 馬生来の特質と家畜化による馬の能力 3. 飼料と飼料設計 4. 現代の馬産業と利活用 5. 日常に見られる馬の病気 6. 馬の生産育成の基本 <p>予習・復習および試験、その他の情報提供等のために、Moodle を使用する。資料は、各回の配布資料を基本とし、総合的に参考図書を推奨する。牛や豚と用途がことなる特用家畜である馬を科学的に学ぶ講座として、また将来総合ウマ科学を学ぶ入り口として役立てていただきたい。</p>	
到達目標	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 馬の進化、歴史的変遷、品種、馬の特質、飼料について説明できる。 2. 馬の現代的利用の観点から品種や特性に基づく利用形態が判断できる。 3. 馬の産業や多様な利活用、日本再来馬の保存について討議できる。 4. 馬の飼養方法を具体的に計画を立てることができる。 5. 日常に見られる馬の病気や疾病について説明できる。 6. 馬の生産育成の基本を理解する 	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、馬の進化・家畜化 2. 馬の感覚器と行動特性 3. 馬体の名称・毛色・血統登録 4. 日本在来馬の歴史と保護 5. サラブレッドとは 6. 馬取り扱いの基本、馬具、施設 7. 栄養学Ⅰ 	

8.飼料設計 9.馬の初期調教 10.馬の生産の流れ 11.馬の育成の流れ 12.馬の感染症と衛生管理 13.馬事文化、ホースセラピー 14.馬の病気と手術 15.とかちの馬文化とばんえい 16. 期末試験 ※期間中に小テストを行うこともある。 ※講師の都合により、講義の順番が変更になることがある。
キーワード
馬、競走馬、乗馬、日本在来馬、栄養、繁殖、行動、馬介在活動、血統登録、病気、感染症、ホースセラピー、障がい者乗馬、馬介在活動、ばんば、競馬、
テキスト・配布資料
各回で moodle により資料データを配布する
参考図書
日本の馬 東京大学出版会 ISBN-13 978-4130602457 ウマの行動学 東京大学出版会 ISBN 978-4-13-074021-0
成績評価の基準と方法
テスト（復習課題）、および期末試験の結果を総合して評価する。 基本的に、期末課題を主たる定数配分とする。授業中に小テストを行うことがあるが、その場合はその成績も評点に含める。最終的に評点は 100 点満点に換算し、60 点以上で合格とする。